
編集後記

WASEDA RILAS JOURNAL No.6 をここにお届けします。

本号は、2018年9月まで早稲田大学総合人文科学研究センター（以下「人文研」）の管理・運営にあたられた上野和昭 前所長、冬木ひろみ 前副所長の差配により企画され、執筆依頼、あるいは投稿論文の審査等々の諸手続きもとられました。また、実際に編集作業を担当されたのは、人文研の助教・助手の方たちです。さらに、学術院事務担当のフォローも不可欠だったことでしょう。まずは、この方々に深く感謝申し上げます。

所長に就任してまだ日の浅い者が「編集後記」を執筆するのも妙なことではありますが、二年前の先例にならって引き受けました。ご容赦ください。ただし、私自身はこの人文研の設立からまもない2012年9月下旬より二年間、当時の海老澤衷 所長のもと、副所長としてこの研究誌の基本設計の段階から関与しておりました。私たちの学術院では初めてのオンライン・ジャーナルということで、特に当時の事務担当の方たちにはさまざまな無理をお願いしつつ、現在はそれぞれの専門領域で活躍を重ねている当時の人文研助手の皆さんからも、いろいろとアイディアを出してもらいながら、何とか第1号をWeb上にアップすることができました。2013年10月のことです。もちろん現在も、このHPで閲覧していただくことができます。ちなみに、第1号の一般投稿による掲載論文は8本、特集は早稲田大学で開催した「第4回東アジア人文学フォーラム」の1つだけでした。初めてのこつゆえ、何かと課題が残ったという記憶もあります。

その後、人文研を引き継がれた益田朋幸 所長、宮城徳也 副所長のご尽力により、WASEDA RILAS JOURNALは発刊を重ねるたびに投稿論文の掲載数がふえるとともに、複数の特集が並ぶようになりました。第3号以降は特別寄稿論文も必ず掲載しています。今回の第6号の場合、目次をご覧いただければおわかりのとおり、多彩な領域の投稿論文、研究ノートに加え、特別寄稿論文があわせて7本、また7つの特集も組まれております。特別寄稿論文のうち3本は、あらたな試みとして研究所員の日本語による論文を英訳したものです。あとの4本は、JCulpという、文化構想学部多元文化論系の新プログラムが発足したことを記念するシンポジウムの内容に相当します。また特集としては、昨年12月に早稲田大学小野記念講堂で開催された「第9回東アジア人文学フォーラム」をはじめ、人文研の各研究部門が主催したさまざまなシンポジウム・講演会などの内容を伝えるものとなっています（各研究部門の催しの数は甚だ多く、掲載されているものはごく一部に過ぎません）。

本号掲載の諸論文、研究ノート、シンポジウムの登壇者等々のお名前を拝見すると、人文研の研究所員（文学学術院専任教員ほか）以外に、文学研究科の大学院生、同研究科出身の方々も多数ふくまれています。他方において、たとえば各研究部門の催しで発表、講演などをしてくださった学外の方々、また外国から加わってくださった方々も少なくありません。

これからも、学内外、さらに海外の研究者の皆様方にもどしどし人文研の学際的な研究活動に関わっていただきたいとおもいます。あわせて、大学院生、キャリア初期の方たちからシニアの研究者まで、それぞれの専門分野の論文を公表する「場」としても、さらに活用していただきたく存じます。

（早稲田大学総合人文科学研究センター所長 陣野英則）